

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

水野 喜代治

靴を揃える… 3 組、二日連続パーフェクト！

3 組 = 5 足 2 組 = 1 足 3 組 = 0 足 合計 6 足

靴を揃える。学年全体で取り組んでいます。この取り組みは、行事の取り組みのように期間が決まっている取り組みではありません。大人になっても老人になっても生涯にわたって継続して取り組むものです。気持ちを揃える事につながるこの取り組みは、必ず生活していく中で大きな力となるはずです。

今日も3組は全員が下駄箱に靴をきれいに揃えて入れてありました。二日連続でパーフェクトでした。登校して校舎に入るときに3組の生徒全員が気持ちを揃えたことになります。3組の下駄箱を見て自分の心も洗われるような気持ちになりました。

昨日の帰りに、一人の男子から相談を受けました。「先生、私は毎日、靴を揃えるのを忘れてしまいます。どうすれば良いか悩んでいます。注意力が足りないので毎日続けることも苦手なんです。」と話しかけてきました。「そうなんだね！事実、君は毎日、靴が揃っていないよね。どうしたらよいか」と私が投げ返すと「下駄箱に、揃えるようにメモを書いておこうかな？」と答えたので、「いいね、そのアイデア、先生が『却下照顧』と書いて下駄箱に貼っておこうか」と言うと、「先生、大丈夫です。明日もう一度、自分で注意して意識して頑張ってみます。それでもだめなら協力してください。」と決意を話してくれました。「頑張ってるね！応援してますよ。」と私も彼の肩をポンとたたきました。今日の朝、私は、3組の下駄箱を見た後に彼の下駄箱をおそろおそろ見てみると、きれいにきっちり揃えて靴が入れてありました。気持ちを込めて一生懸命に揃えようとした彼の気持ちが伝わってきました。本当にうれしくて、その場で拍手してしまいました。廊下であつたら、「すごく、きれいに揃っていましたよ。頑張ったね！」と声をかけたい気持ちで一杯になりました。

揃える気持ちはいつでも、どこでも



昇降口の下駄箱に靴を揃えて入れる取り組みをしている2年生。昇降口の靴は揃ってきたのと同時に、校舎内のトイレのスリッパも揃ってきました。昇降口でできていた心を揃えるという行為がいろいろな場面で同じようにできていることに感心します。

今日は、猛暑です。何もしていなくても額から汗がにじんできます。体育でプールの授業が行われています。水着を入れた袋を持って、うれしそうに生徒がプールに走って行きます。思わず、私も泳ぎたいと思いました。こんなに気持ちがうきうきしているときでも、いや、うきうきしているからこそ、靴を脱ぐときに一回心を揃えることが大事です。プールに入るといわず、心はプールに跳んでしまったのか、飛び込みをしたように靴が脱ぎ捨てられたのもありました。思わず微笑んでしまいました。プールでケガしないようにと心につぶやきながら靴を私が揃えておきました。どんなときも靴を揃えられる余裕があるとすばらしいです。